

# 組み体操事故件数、全国ワーストは兵庫県 その理由とは

毎日新聞 2019 年 6 月 22 日 07 時 00 分(最終更新 6 月 22 日 07 時 46 分)

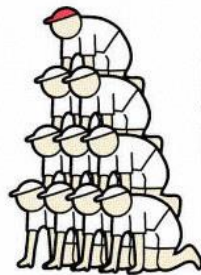
## 組み体操の主な技



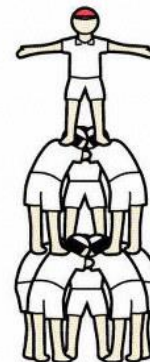
補助倒立



サボテン



ピラミッド



タワー

## 組み体操の主な技

組み体操の事故件数で、兵庫県が全国ワーストだにご存じだろうか。昨年度の県教委の調査では、6 段以上の「ピラミッド」に挑戦した小中学校は計 100 校弱あった。阪神甲子園球場で体育大会を開く同県西宮市では、タワーがそびえ立つと大歓声が起きるといふ。近年では「組み体操は危ない」と社会問題化し、見直しの動きもあるが、なぜ兵庫の学校は大技に挑み続けてきたのだろうか？



ピラミッドが崩れ、組み体操の安全性の議論が起こるきっかけとなった大阪府八尾市立中の体育祭  
=ユーチューブから 2015 年 9 月 27 日

児童や生徒が四つんばいになって積み重なるピラミッドは最高 9 段。肩の上に立つ「タワー」は最高 5 段。県教委の昨年度の調査(神戸市を除く)によると、昨年度は小学校 37 校と中学校 59 校が 6 段以上のピラミッドを実施。小中の計 34 校が 5 段タワーを作っていた。事故が起きた計 285 件のうち 3 割強をこの 2 種目が占めたが「高さ」にこだわる学校が多いようだ。

全国的な統計でも兵庫の事故件数は際立つ。大阪経済大の西山豊名誉教授(数学)が日本スポーツ振興センター(JSC・東京都)の災害共済給付件数を基にまとめた統計によると、2017 年度の全国の小中学校の組み体操中の事故は 4418 件。兵庫県は 3 年連続の全国ワーストとなる 566 件で、全体の 1 割強を占める。

組み体操が社会問題になったのは 15 年秋、大阪府八尾市の中学校で起きた事故がきっかけ。スポーツ庁は 16 年 3 月、安全が確認できない場合は実施しないよう都道府県教委に通知した。県内自治体でも、神戸市が 16 年度からピラミッドは 4 段までとするなど技を制限した。ダンスに切り替えるなど対策を進める学校が増えた一方、依然として大技に挑む学校もある。

背景の一つに、伝統的な大会の存在がある。西宮市は 1951 年から中学校の連合体育大会を開いており、中学 3 年の男子が組み体操を披露。記録の残る 81 年から 5 段のタワーを実施し、昨年 11 月も全市立中 20 校が取り組んだ。市教委は「プログラムは毎年、タワーありきでなく検討してきた」とするが、ほぼ前年を踏襲してきたという。保護者もタワーに取り組んだ経験がある人が少なくなく、会場の甲子園球場はタワーが立ち上がる瞬間に盛り上がるという。

地域の期待を理由に挙げる声も。東播磨地方の体育教師は「猛暑で練習時間の確保も困難。難易度の高い技はやめたい」という。だが農村部などは運動会が地域ぐるみの行事になっており、町内会長らから「見どころをやめないで」との声が寄せられる。

それでもなお、事故の多発を重く見た県教委は今年 1 月に「ピラミッドは小学校で 3 段、中学校で 4 段以内」という JSC の目安を考慮するよう各市町に通知。西宮市教委の関係者は「近年の子どもの体力低下の状況や通知の趣旨を考慮し、今後の演技構成を検討したい」としており、長年の慣習は見直されそうだ。

組み体操事故に詳しい名古屋大の内田良准教授(教育社会学)は「段数の高いピラミッドやタワーは命に関わるけがにつながる可能性がある。継続している学校はリスクを過小評価している」と警告する。「教育の自律性から国や都道府県に規制を期待するよりも、各市町や学校現場が早急に安全対策に乗り出すべきだ」と指摘した。【反橋希美】